



マーシャル方面遺族会
 (旧クェゼリン方面戦歿者遺族会)
 〒103 東京都中央区
 日本橋人形町1-8-2
 電話 03-661-8760
 振替口座東京 0-93487 番
 編集兼発行人 佐藤宗丕



会員章(バッジ)

会長交替に際し御挨拶

名誉会長 浮田信家

会員並に関係各方面の皆様には平素当遺族会のため格別の御支援を頂き誠にありがとうございます。

私は昭和38年本会発足以来、常任幹事、副会長を経て、昭和49年からは会長として本会運営の衝に当ってまいりましたが、本年二月の総会の際再任を拝辞し、退任させて頂きました。

22年間、幸い健康に恵まれて本会発足の時想定した事業の殆どすべてを完了し、大過なく大任を果すことのできましたのは、偏に皆様のお励ましと、英霊の御加護によるものと感謝いたしております。

後任の佐藤新会長は、本会発足の時以来私と共に会務に携って来られ、後事を託するに最適任者であります。

皆様、永年私に寄せられました御

厚情を、今後は新会長にお願い致しますと存じます。

私は去る二月の総会に於て、名誉会長に選任され、会の発展のため側面から協力することになりましたので、従来と相変らぬ御厚誼を賜りますようお願い申し上げます。

会長 佐藤宗丕

今年二月十日の定期総会で、図らずも本会の四代目会長を仰付けられ、責任の重さを痛感しております。

会員の中に、会長適任者が大勢おられるのに不肖の私を指名されたのは、私が本会創設以来今日まで浮田前会長より直接御薫陶を頂いてきたからと理解しております。

私と同時に選任された各役員は、私の日頃尊敬し信頼している有能な方々ばかりであります。更に、浮田前会長

が名誉会長に、キリバス共和国名誉領事栗林様が顧問に、朝香孚彦様が相談役に御就任下さり、篤志会員の皆様は御協力を約束して下さったことは、誠にありがたく心強い限りであります。皆様御承知の通り本会は、昭和三十八年に創設され、遺族だけの力で世上に類例を見ないめざましい活動を続け数々の成果をあげてきました。

これは代々の会長を中心に、役員、会員が誠心を込めて努めた賜であり、これに加えて厚生省、民間篤志家、現地官民の温い御支援によるものであります。

戦後四十年を経て、戦歿者に近い肉親は或は老い或は物故され次第に数少なくなつてゆきます。本会の経営は今後年と共にきびしさを増してゆくものと予想されますが、私は浮田前会長の確立された運営基本方針を守り、栄光ある本会の伝統と歴史に奉仕する所存であります。

本会の目的である「戦歿者の慰霊」には先ず、灯を絶やさないこと、即ち会の存続が最も肝要と思ひます。

一年でも長く存続させるために、財政的配慮から今年三月末日を以て心ならずも事務職員に退職して頂き、その事務は役員が分掌処理することにした。当然、会員に対するサービスの低下も懸念されますが、本会存続のために痛みをわけ合う意味で御寛容と今後の御協力を切にお願い申し上げます。

目次

会長交替に際し御挨拶	1
昭和六十年慰霊祭 総会 直会	2
浮田名誉会長を囲む会	4
慰霊の本義	4
佐藤 宗丕	4
マージナル、ギルバート	4
両諸島巡拝	5
妹尾 泰治	5
西田 シズ	6
島上美知子	7
山岸ヤエコ	8
谷 達也	8
塚田 禎一	8
祖田 弘光	9
栗原 利雄	10
教育荒廃の元凶	11
木ノ下 甫	11
靖国神社のみたままつり	12
恩讐を超えて	13
村岡 達志	13
ルオット島の思い出	14
黒川 誠	14
お便りの中から	15
橋 ハルキ	15
食事と健康	16
これでバッチリ	16
英霊にお応えするために	17
「ヤルート戦記」	17
寄附者芳名	18
現地慰霊を希望する方へ	20
本部だより	20
会員名簿・本部移転・霊砂	20
環礁原稿	20

昭和六十年

慰霊祭 総会 直会

一昨日、昨日と続いた荒天も慰霊祭

当日の二月十日は嘘のように晴れ渡って、冬には珍らしく暖かく、そして静かな好日を迎えました。境内の梅の蕾も大きくふくらんでいます。今年から慰霊祭を二月の第二日曜に変更し、家族揃って出易いように一人でも多くのご参拝をと、期待しております。

定刻に近づくにつれ、当初申込みの方々の他に大勢の会員の皆様が続々とお出でになり、控所内では知った顔をつめては懐かしく語りかけ、一年ぶりに挨拶する姿があちこちで見受けられ、なごやかな談笑がわき起ります。午前十時、会員、来賓二〇〇名余は御手水に心身を淨めて昇殿参拝、ご本殿に渡る長い廻廊を冬の陽に照り映ゆる樹々の葉を仰ぎ乍ら進みます。

慰霊祭執行

み魂安かれ と手を合わせて長い間祈ります。じーんと熱いものが胸をよぎります。玉串は会長の他に来賓代表の栗林徳五郎様、妻代表の青森県塚原ハナ様、子供代表の熊本市片山玲子さん、孫代表の鯖江市田賀奨君がそれぞれ奉奠致しました。

総会は参集所で行い、先ず田中常任幹事の司会で浮田会長の挨拶があり、次いで議事に移り、大高幹事が議長と

なって逐次、議事を進めました。

五十九年度(第二十一期)会務報告を佐藤副会長、決算報告を井上常任幹事、そして監査報告を秋山監事が行い、夫々異議なく承認されました。次に本年度会務計画、予算案を一括審議して提案通り可決致しました。(別掲、第二十一期決算報告書、第二十二期一般会計予算参照)また、現地参拝の希望の有無を尋ねました処、二十二名の希望者がありましたので、役員会で墓参計画試案を作り、後日発表することと致しました。次に今年役員任期が満了するため、会則八条の規程に従い、全役員改選が行われました。

先ず、予ねてより高齢と健康上の理由から、強く辞意を表明されていた浮田会長の後任について議長は、佐藤副会長を次期会長に推薦すると決定した。去る一月の役員会の経緯を説明し、佐藤氏の会長昇格を諮りましたところ、満場一致で賛成をいただきました。また、監事には秋山正清、柴崎晃、高橋鎮夫の三氏を推薦し、これも同様ご承認を得ました。

次いで、佐藤新会長は副会長以下の新役員(別掲)を指名発表し会員の賛成を得ました。又、退任された浮田前会長を名誉会長に、栗林徳五郎氏を顧問に、朝香孚彦氏を相談役に委嘱するとの役員会の決定も承認されました。篤志会員については、後日、役員会に於て協議し、前会長とも相談して選考し、改めて委嘱したい旨、説明し、これも了承されました。

以上により佐藤会長は新役員を個々に紹介した後、新会長としてはじめて挨拶を行い、「先ず、英霊の御心に適う途を念頭におき、本会の灯を絶やさないために不断の努力を傾注し、そして明るく風通しの良い遺族会にしたい」と抱負を述べ、更に会務執行の態様は、浮田前会長時代の方式を踏襲し、特別の事由のない限り変更しないとの方針を明らかにしました。

続いて名誉会長となった浮田前会長は、在任中の公私に亘るご協力を謝す旨、ご挨拶があり、顧問にご就任の栗林氏は「キリバス共和国名誉領事としての仕事を通じて、会のために貢献したい」とご発言がありました。

以上で午前十一時三十分とどこおりになく総会を終りました。

尚、篤志会員及び各種委員会委員については新役員によって別掲のとおり委嘱されました。

直会 旅行

慰霊祭に続く昭和六十年の総会も無事終了、予定通り恒例の直会旅行に出発となりました。

予定人員オーバーの参加者にて、旅行委員高林さんの車がバスに続きまし

た。当日は絶好の天候で暖かく大変楽な旅行でした。翌日は宿舍箱根強羅ホテルより名所大涌谷に参りましたが、箱根でも珍らしく日本晴れにて雪化粧の富士山がすばらしく皆さん大変喜んでいました。

大涌谷名物の黒卵二個宛の配給があり、一個食べると三年長生きするとの説明がありました。この大涌谷は昔地獄谷と呼ばれていたが明治天皇の行幸に際して、天皇に地獄を見せるとはおそれ多いとして現在の大涌谷と改名した由であります。

帰途、小田原市風祭の鈴廣本店で名産のカマゴボの工場を見学、おでん定食賞味の後、曾我梅林を經由して午後四時東京駅に帰りました。

◆昭和六十年役員等

名誉会長	浮田 信家
顧問	栗林 徳五郎
相談役	朝香 孚彦
会長	佐藤 宗平
常任幹事	大高 吉郎
同	田中 雄吉
同	晝間 楽平
幹事	荒木 常子
同	佐竹 エス
同	高林 芳夫
同	山口 良二
同	山崎 正清
監事	秋山 正清
同	柴崎 晃
同	高橋 鎮夫
同	石井 清
篤志会員	

同
 大野 嘉村 木ノ下 ケイス・エス・ ヴィリアムス ジョン・ ウィリアムス 瀬沼 ウイリス 土屋 徳太 徳祐 西村 長谷川 長谷川 本坪 松岡 森山 山村 横溝
 一 栄 柴 甫 栄 柴 甫 栄 柴 甫 栄 柴 甫 栄 柴 甫 栄 柴 甫 栄 柴 甫 栄 柴 甫 栄 柴 甫
 幸四郎 要 喜久雄 志 芳 昭 敏 次 造 子 郎 久 光 太 徳 祐 裕 次 栄 次 栄 次 幸四郎

◆各種委員会の委員
 ○広報委員
 佐藤宗丕、大高吉郎、田中雄吉、晝間
 楽平、荒木常子、山口良二
 ○慰霊祭実行委員
 全役員及び次の方。内山浅子、木下満子、木村久子、黒川 誠、高橋 功
 ○直会委員
 佐藤宗丕、大高吉郎、佐竹エス、高橋 功、高林芳夫、木下満子
 (二月十日の総会で井上賀雄様が副会長に選任されましたが、五月初めに健康を書し、六月九日に辞任されました。早期の御快癒をお祈り致します。)

第21期決算報告書 (自59. 1. 1 至59.12.31)

第22期一般会計予算

マーシャル方面遺族会

(自60. 1. 1 至60.12.31)

一般会計収支計算書

一般会計財産目録 (59.12.31 現在)

<収入の部>

科 目	金 額
前期より繰越	2,006,804
会費(過年度分)	162,000
会費(当年度分)	1,113,000
寄附金等 (うちギルバード関係 メリア親音寄附金)	2,457,000 (600,000)
受取利息	47,578
雑収入	98,370
小 計	3,877,948
合 計	5,884,752

<支出の部>

科 目	金 額
慰霊費	388,002
運営費	2,009,497
刊行費	613,245
印刷費	13,930
通信費	87,575
事務所借用料	314,175
振替払込料	29,510
事務用品費	8,190
会議費	4,289
雑費	800
ギルバード部会協賛費	133,157
特別会計繰入	1,000,000
小 計	4,602,370
次期へ繰越	1,282,382
合 計	5,884,752

資 産 の 部		負 債 の 部	
科 目	金 額	科 目	金 額
現 金	71,903	前受会費 (60年度分以降)	695,000
普通預金	523,579	預り金	3,000
定額貯金	1,600,000	預り金(旅行)	684,000
振替貯金	570,800	預り金(泊費)	101,900
		小 計	1,483,900
		次期へ繰越	1,282,382
合 計	2,766,282	合 計	2,766,282

<収入の部>

科 目	金 額
前期繰越金	1,282,382
会 費	1,200,000
寄附金等	1,500,000
受取利息	40,000
雑収入	20,000
小 計	2,760,000
合 計	4,042,382

<支出の部>

科 目	金 額
慰 霊 費	200,000
運 営 費	1,500,000
刊 行 費	500,000
印 刷 費	50,000
通 信 費	150,000
事務所借用料	200,000
振替払込料	50,000
事務用品費	70,000
会 議 費	100,000
雑 費	30,000
予 備 費	50,000
小 計	2,900,000
次期へ繰越	1,142,382
合 計	4,042,382

特別会計①収支計算書 (慰霊碑維持基金)

<収入の部>	
前期より繰越	3,000,000
当期収入 (一般会計より)	1,000,000
合 計	4,000,000
<支出の部>	
当期支出	0
次期へ繰越	4,000,000

特別会計②収支計算書 (退職金基金)

<収入の部>	
前期繰越	100,000
当期収入	0
<支出の部>	
当期支出	0
次期へ繰越	100,000

浮田名誉会長を囲む会

去る四月六日(土)桜も満開の東京半蔵門の東条会館で、有志百余名による、浮田名誉会長ご夫妻を囲む感謝の集いが行われました。

浮田さんは、本会結成当初より、常任幹事、副会長、会長として二十二年の長きに亘り、至誠一貫、只管戦死者

の慰霊に尽瘁され、この間現地調査、遺骨収集、慰霊碑建立、戦記刊行、慰霊団派遣等の当初計画を悉く遂行し、輝かしい成果を挙げられ、そのご功績は、誠に偉大であり、会員一同の喜びは勿論、殉国の英霊も定めしご感応のことと拝せられます。

さきの総会で、浮田さんが名誉会長にご就任されたのを機会に、多くの会員から囲む会の話が沸き起こり、世話人の方々のご尽力で、浮田さんのご人徳そのままに、意義深く、充実した会となり

感謝状

浮田信家殿

貴方は本会結成以来二十二年間の長きに亘り至誠一貫只管戦死者の慰霊に奉仕され本会の目的遂行に多大の貢献をされました
その業績は誠に偉大であり殉国の英霊も定めし御感応のことと拝せられます
靖國の桜花匂う佳き日にあたり
全会員を代表して茲に衷心より
感謝の意を表します

昭和六十一年四月六日

マーシャル方面道族會

會長 佐藤宗不

慰霊の本義

佐藤宗不

英霊は、今……

本会は、マーシャル、ギルバート両諸島で戦死された三万柱の英霊をお慰めすることを唯一つの目的としております。戦後四十年、本会結成二十年を経て曲り角にきた私共の脚下を視る意味で、皆様と共に慰霊の本義を見直してみたいと思います。

私は、慰霊の要諦は英霊の御心に適う状態を御照覧頂き、御心を安んじ奉ることと思ひます。

英霊の御心をどう感受するかは人によって差異がありましようが、私は次のように考えます。

戦死された方々は、進んで国難に赴いた者、召されて従軍した者の区別はあれ、出征に際しては生還を思わず国家、民族のため一命を捧げる崇高な覚悟を固め、今はの際の思ひは「世の中が平和になって妻や親子が幸せに暮せるように、日本とアジアの諸国の独立が保てるように」であつたと思ひます。

ところで、英霊は今、日本の現状をどのように感じておられるのでしょうか。これもまた人により差のあるところですが私には「戦後四十年、祖国はまだ占領下にある。同胞の敗戦後遺症は重症」とお歎きのことと思われてな

りません。以下その理由を述べます。

日本はこれで独立国か……

昭和二十年八月、戦争終結の後日本の北部を侵略した連合軍の一部は未だにわが国固有の領土四島を占領し、要塞として軍備を増強し、退去する意志は全くないどころか、自国の領土だと言ひ張って話合ひにも応じません。

連合軍は日本占領期間中、日本が将来とも彼等にとつて脅威とならないよう徹底的な日本弱体化洗脳手術を施しました。未だ経験しなかつた敗戦の、虚脱と恐怖と飢餓の状態にあつた日本人の大多数は、巧妙な飼育と入念な手術によつていとも素直に洗脳され、四十年経つても未だその呪縛にかかつてままでいます。恥しながら私も曾てはその一人でありました。

今尚効いている占領の呪縛

昭和二十年十二月の占領軍の指令(所謂神道指令)の中に「官公吏は公的資格で神社に参拝してはいけない」等とありました。

この指令、今は勿論効力はありませんがその狙い(日本弱体化)は憲法に織り込まれていて、靖國神社公式参拝は違憲の疑いあり、等の愚論の根拠になつております。

主催者を代表して、佐藤現会長がご挨拶、感謝のことばに感極まる場面もあり、篤志会員や、遺族会員の方々の中からなる感謝御礼のことば、伴奏付の軍歌合唱、手品などの余興もあり、感謝状や、現会長のお孫様にや花束贈呈、などなど。最後に全員で「あの椰子の島」を斉唱して終りました。いつ迄も、お元気に本会を見守って頂きたいと思う次第です。

国家の要請によって戦場に赴き、同胞に替って一命を捧げた殉国者の御霊を国家がお祀りしないのは世界にも稀な不徳義、背信行為であります。

天皇陛下や首相が外国を訪問されると必ずその国の戦死者の霊に公式に参拝されるのに、靖国神社に参拝するのは憲法違反だと騒ぎたてる一部の政党や、マスコミがあります。

憲法のどこにもそんなこと書いてありません。もし、憲法を厳密に解釈すれば第二十条が該当すると言うなら、私学に対する助成は明らかに第八十九条違反であり、自衛隊は疑いもなく第九条違反です。とすれば現憲法は国情に合っていないので即時廃止または改正すべきです。

私学助成も自衛隊も合憲と解釈できると言うなら、靖国神社公式参拝は問題なく当然合憲です。

軍事占領下での憲法改廃は国際法で禁止されていますが、占領軍は用意した原文そのまま議決するよう強要し、修正を許さず而も日本人の意志で自発的に作ったように擬装させました。

前文中の「日本国民は……平和を愛する諸国民の公正と信義に信頼して、われらの安全と生存を保持しようと決意した」に至っては、まるで受刑者の誓いの言葉か降伏証文です。

日本の近くに平和を愛せず公正も信義もない強欲な強国が出現したことからよって、現憲法成立の前提が崩れ

た以上、この憲法は当然改正すべきだと思います。

呪縛の効いている例がまだあります。自主憲法制定を党是としている大政党の幹部が「たとえ押しつけられたものでも内容がよければいいではないか」、「既に国民に定着しているから」「改憲を口にするに選挙に不利」などと言っているのは正に重症です。

世界で最も反日的な国民は日本人と言われるのも道理です。

占領軍の日本人骨抜き工作は、神道指令、ラジオ番組、真相はこうだ、教育改革、極東国際軍事裁判、押しつけ憲法、等々と入念に行われました。

日本の教育も政治も間違っていた。日本の歴史は醜悪、日本は好戦国、侵略者、日本は守るに値しない国、日本人は世界中で一番悪い人間だと思ひこませるような呪縛にかけられました。これに、反日本人的な似非文化人が迎合し、提灯を持ってその効果を増幅させました。

戦後、戦勝国は勝手に戦争犯罪法を作り、大東亜戦争に適用して日本を裁判にかけました。明らかに法不遡及の原則無視の事後法で、勝者が敗者に対する憎悪と復讐の口実に裁判の体裁をとっただけの、愚辣かつ大がかりの公開リンチ(私刑)でした。

我が方の正当な主張、確実な証拠で彼等に不利なものも悉く恣意に退けるという卑劣な蛮行が繰返されました。

マッカーサーは後日、東京裁判は誤りであったと告白したと聞きますが、戦犯の汚名を着せられ、虐殺された者の人権はどうなるのでしょうか。

この裁判を是認する史観が未だ占領の残滓として残っています。特に学校教育の中で増殖再生産されているのは由々しい重大問題です。

慰霊の本義

以上皮相ながら、祖国が未だ占領下にある例証を試みました。北方四島、神道指令、靖国神社公式参拝、憲法、極東国際軍事裁判、教育改革等は、過去のことではなく、現に日本人を囚人とし、その精神を蝕みつつあります。祖国の栄光に殉じられた英霊のお歎

マーシャル・ギルバート両諸島巡拝

—— 積年の願い果たす ——

日本遺族会事務局長 妹尾泰治 巡拝団団長

きの程が察せられます。

私は冒頭に、英霊の御心に適う状態を御覧頂いて御安心願うことが慰霊の本質と申上げましたが、前に述べた数々の占領軍の置きみやげを綺麗に処分し、すべての日本人が占領の呪縛から脱却して、日本を本来の姿に戻すまでは英霊に対し、安らかにやすみ下さいとは申上げ難い気が致します。

間もなく八月十五日が巡って参ります。この日を単にお祈りするだけの日から一步を進めて、英霊の御心に適う日本を築く誓いの日々に昇格させることが慰霊の第一歩と思います。

以上平素思っていたことをそのまま書きましたが、会員皆様の卒直な御意見を聞かせ下さい。

日本遺族会では、マーシャル・ギルバート諸島戦跡巡拝を、昭和六十年三月五日より二十日までの間実施した。これは、昨年三月政府の手によって、マーシャル諸島マジュロ島に東太平洋戦没者の碑が完成したのを機に企画したもので、マジュロ、ウォッセ、クエ

ジェリン、ブラウン、タラフへの巡拝は、日本遺族会としてははじめてである。一行二十三名は、三月四日東京の九段会館で結団式を行い、翌五日成田を出発した。グアム島で一泊し、三月六日午後グアムを出発、トラック島、ポナペ島、クエジェリン島を経由し午後十一時三十分(現地時間)マジュロ空港着。

空港には、深夜にもかかわらず多くの日系人の方々が綺麗なレイを手に出迎えてくれた。マジュロ島は、戦前、

日本統治下にあり、戦災もうけていないので、親日的な日系人が多く、日系人協会も設立され、現地の日本人との交流やマーシャル方面遺族会と深いつながりをもっている。

入国手続も比較的順調にすすみ宿舎のサンホテルに入る。

このホテルは日本人が経営している。当初の巡拝計画では、クエジェリン、ブラウン班が三月七日、タラワ班が九日から十一日まで、ウオッセ班が十日にそれぞれ巡拝する予定であったが、到着後現地エア・マーシャルの飛行機故障等のため、大巾な日程の変更を余儀なくされた。

三月九日ギルバート班の五人はタラワに向かう。タラワのベンオ島では、キリバス慰霊公園の南瀛マリア観音像の前で追悼式を行い、五千二百余柱の御霊に敬虔なる祈りを捧げた。帰路は、これまた飛行機故障で一日遅れ、十二日チャーター機でマジロ島に帰着した。

ウオッセ班五人は、十日朝チャーター機でウオッセ島に向かう。ウオッセでは、日系人協会の山村要さんに御案内いただき、この地に眠る二千余柱の御霊に心から慰霊の誠を捧げ、昭福丸と豊津丸の碑にお参りをした。

山村さんは、日系人協会のリーダーで、また、マーシャル方面遺族会の篤志会員でもあり、我々は島中非常なお世話になった。

十一日、激しいスコールの中、マジロ平和公園の東太平洋戦没者の碑の前で日系人協会代表の参加を得て、マーシャル・ギルバート諸島関係の全戦没者二万五千余柱の慰霊祭を行った。

花輪を飾り、故郷から持参した品々を供え、雨にうたれたながら、国歌斉唱、黙禱の後私が団長として謹んで追悼の言葉を申し述べ、全員が献花して合同慰霊祭を終わった。

十二日、クエジェリン班はクエジェリン米軍、コンチネンタル航空の厚意によってクエジェリンの日本人墓地で慰霊祭ができることになった。帰国途中の限られた時間ではあったが、雨の中、国歌を斉唱して献花を行い、四千百余柱の御霊に心から慰霊の誠を捧げた。

十六日、ブラウン(エニウエトク)班五人は、前記山村さんの案内でチャーター機で、クエジェリンを経由して念願のブラウン島に降り立つ。ここは放射能汚染のため、入れなかっただけに、ブラウン環礁のブラウン島、メリレン島に巡拝できたことは参加遺族にとって感激であった。

大本営も国内への土気の影響を心配して玉碎の発表をしなかったというブラウン環礁、この地に眠る三千余柱の御霊に、最年長の谷さんが追悼の言葉を申し述べた。

この度の巡拝については、日程の変更、数次に分れての帰国と偶発的なこ

とはあったが当初予定の地をすべて巡拝し全員が積年の願いをはたして無事帰国した。

◆巡拝団員名簿

△クエジェリン・ブラウン班▽

西田シズ 山岸ヤエコ 宗片純子

桜井きみの 小林ちよ 島上美知子

坂本美枝子 秋本キン 谷 達也

塚田耕治 塚田禎一

△タラワ班▽

吉田貫治 祖田弘光 飯村忠義

△ウオッセ班▽

栗原利雄 栗原良造 榎本ふく

秦 せつ子 関口仙之助 北原ひで子

吉田 よね

△本部▽

妹尾泰治(団長) 庭月野優侑基(本部)

△添乗員▽

加藤恵一(特・日本旅行)

慰霊巡拝に参加して

(クエゼリン) 西田 シヅ

三月五日英霊の眠るギルバート、マーシャル諸島に向って成田を発った。始めて見る南の海は誰もが目を見張る位きれいでした。此の島此の海で、水漬く屍、草むす屍と散って行かれたと思うと感慨も一入でした。

そんな激しかった戦いも、今はろその様にサンゴ礁の海は静かで平和なものに見えた。グアムで一泊、トラッ

ク、ボナベと着陸、ボナベ機外の小憩の時は日没直後、丁度十五夜だったでしょう。満月が煌々と輝いていました。「今日も暮れ行く異国の丘で」と一人で口をついて出た歌、友と二人で相談した訳でもないのに同時に歌いました。遺族の気持は皆同じだったんですね。歌の文句の様に嵐が過ぎてても帰って来ては呉れませんでした。涙と共に歌い乍ら機内に入る。私の目さず地クエゼリンに給油の着陸した時はもう日もとつぷりと暮れ、島影さえも見る事が出来ませんでした。

せめて一足でも地上に降りて見たい切ない思いも米軍の基地なるが故に許されず素通りでした。

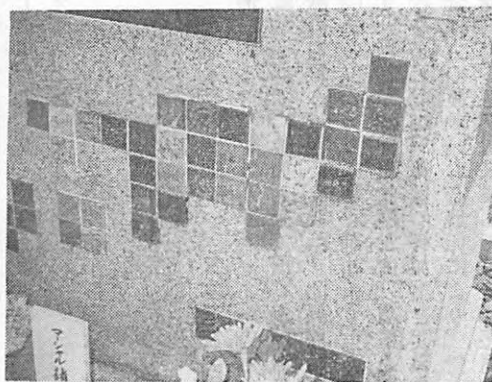
マジロに着いて班毎の巡拝が始まりましたが、クエゼリン班は飛行機の故障のため待機の姿勢でした。巡拝を待つマジロでの五日間は焦りと不安の日々でした。日本から見たらまだ自然の儘の島、色々と不便を来たし、計画通りに進まず事務局の方々の御苦労は見るに忍びない毎日でした。

焦り乍らも、又一方私達に取っては追憶の間でもありました。遙かに思いを馳せていたマーシャルにさびしく眠って居る英霊のそばに五日間も居て上げられたのですもの。何十年過ぎ来し方を見つめて成長したであろう高くそびゆる椰子の大木の根元に、風と共に打ち寄せる太平洋の荒波の音は、自分達に呼びかける如く当時の事を生々

しく呼び戻して呉れました。
 「苦しどきたのしきときも相見たる椰子の小島よ別れ近きか」いよいよ自分の最期であるう事を期し家族に詠み送りし心情如何ばかりかと、今自分がその島、椰子を眺めて本当に辛かったでしょうと只々涙でした。

せっぱ詰っていたクエゼリン参拝も、それでも特別の計らいで定期便を待たしていただいたの参拝でした。参拝の度、不思議と降る雨これこそ涙雨でなくてなんでしよう。私達の心がぎつとみ魂に通じたのでしょね。与えられた三十分は束の間でした。お供物もそこそこに献花が行われ「君が代」も声とはならず雨と涙が一緒になって頬を伝わり、み魂とお会い出来たのも束の間で哀しいお別れをして来まし

クエゼリンの碑



た。せめて一握りの砂でもと見まわしましたが舗装された道路と芝生でそれさえも見当らずせかされるままに機上の人になりました。短時間ではありましたが目的も果し得て身も軽くなった様でした。

夜を日に次いで爆撃で荒れ狂い多くの方々が血を流した此の環礁も今も其の無残さを忘れた如く清く澄み切つて平和そのもの、永遠に平和であれと心に念じつつ静かな環礁を此の目に焼き付けて参りました。

同じ境遇に生きて来た遺族との出会い、又親善を兼ねた現地日系人との交流会、空港での見送り等、滞在中の数々の御協力は貴い思い出として忘れる事は出来ません。全員揃って帰国出来なかったのが残念でしたが、その方々も二十日には帰られた事を事務局よりお電話でお知らせいただき安心いたしました。

九日間の巡拝の旅は、本当に事務局の方々にお世話になりました。取り分け現地では妹尾団長さん、庭月野さん又旅行社の加藤さんに数々の御苦労をかけ、感謝の言葉もございません。どんなにかお疲れの事とお察し申し上げます。どうぞ皆様呉れ呉れも御身御大切になさいます今後共私達遺族のため御協力下さいます事をお願い申し上げます。

本場に有難うございました。
 (北海道小樽市清水町12-13)

(クエゼリン) 島 上 美知子

マーシャル・ギルバート諸島戦跡巡拝団に参加させて頂き、念願のクエゼリン島に参拝する事が出来ました。本場に有難く嬉しく思っております。

成田では日本遺族会の方々に見送られ一路グアムへ出発、一泊してグアム島の慰霊碑に参拝、南国のハイビスカスの花を見、横井さんのことなどガイドさんの説明を聞き、トラック、ポナペ、クエゼリンに寄りマジュロには夜十一時半頃に着きました。

現地の方々の出迎えをうけ、首にレイをかけて頂き夢のようでした。ホテルでは母と同室の御配慮を頂き感謝いたしました。

一夜明け、椰子の葉音、青い海、少女がみせる窓ごしからの笑顔、さわやかな朝でした。

「今日は休養です」と団長さんのお言葉で自由行動、タクシーで郵便局へ切手を買いに掛かけました。そこで局員の方が料金を計算するのに掛算をせず、1234と加算しているのを見て悠長な……とびっくり、流石南国、日本では考えられない事が数々あります。終戦から四十年経た今日でも此の程度、東太平洋戦戦死者の皆様御苦労なされた事と思えます。

此の度日本遺族会のお世話で父に兄に主人に地下に眠る皆様に遠く離れた日本から、やっと参拝に参りました。

たが、とまどいばかりで本場に遅くなって済みません。安らかにねむって下さいと祈るばかりでした。

七日朝チャーター機の故障で明日出発との事、青い珊瑚礁の海を心ゆくまで見る事が出来ました。しかし予定は未定にして決定にあらず、つぎつぎと予定はくずれ日延べが重なりました。団長さんの苦悩は気の毒な位でした。

出発の前日小雨の中マジュロの合同慰霊祭が行なわれました。山村様から花輪を頂き「海行かば」を斉唱して一人一人花を捧げ冥福を祈りましたが、おもわず熱いものを感じ二度と戦争はしたくないと心に誓いました。

十二日午後マジュロを出発しクエゼリン島に向いました。待ちに待った父の島クエゼリン。ミサイル基地、悩裏に焼き付けようと目を見開きました。三十分位で満足とは言えませんが、島の土を踏み、石、砂を手に取り、富山の酒、水、たばこ、そして好物等お供えして兄や弟達の気持も一緒にと祈りをこめて墓参をしました。母と一緒に来ることのできたのは父の導きと皆様の暖かい御厚情の賜と御礼申し上げます。父もさぞ喜んでる事と思えます。

成田にて日本遺族会の出迎えをうけ帰路に着きましたが、妹尾団長様始め庭月野様、日旅の加藤様、その他関係者の方々色々お話を頂き恙無く目的を果す事が出来ました。厚く御礼申し

上げます。又、英霊の御加護のありました事、深く深く感謝し後世に語り伝えたいと思います。

(富山県礪波市小杉三八一)

(トラック) 山岸 ヤエコ

今回永年の念願叶い、日本遺族会主催によるマーシャルギルバート方面の戦跡巡拝団に参加させて頂く事が出来誠に有難うございました。团长様始め関係各位の方々へ厚く御礼申し上げます。当初私は健康状態を大変気にして居りましたが、英霊の御加護と団員の皆様方の温かいお心遣いにより、無事帰国する事が出来まして重ねて感謝する次第です。

主人が出征前幼児であった長女が四十五歳になり、私の付添として同行致しました。初めて日本を離れてグアム空港に近づき機上より見えるきれいな海、絵の様な島、雪の北海道から一足飛びに南国の土を踏んだ時は夢の様な気がしました。ホテルまでの道路沿いに見る草花の強烈な色彩に見とれて居ました。

今回最初の慰霊地グアムでは巡拝予定の無い所を、主人の戦没地は日本へ帰国途中サイパン島北方洋上に近い場所として、团长様のお心遣いにて行って頂いた慰霊祭と有難く感謝して居ります。

帰国を喜んでいた亡夫はどんなにか残念の事と思いが熱くなり、こみ上

げて来る悲しさで君が代も、海行かばも声になりませんでした。

マジユロへ着いたのは夜中だったにも拘らず、日系現地人の方の温かい歓迎を受け心づくしのレイをかけて頂きました。マジユロで一週間は東太平洋戦没者の碑での慰霊祭、日系人との交歓会、椰子の木、珊瑚礁の海、等々忘れられない思い出となり頭の中に焼きつけて参りました。四十年前はどんなであった事かと想像すると胸が痛みます。平和の礎となられた将兵があつたなればこそと。亡夫の居りました島がはつきり分りませんが、マーシャル諸島は皆同じ様な環境であつたと思われまふ。私の巡拝地はクエゼリンとなつて居りました。最後に現地の方々の暖かい歓迎に感謝し、何時までも英霊を見守つて下さる様お願いし併せて皆様方の御健康と御多幸をお祈り申し上げます。

(北海道上川郡鷹栖12-4)

(ブラウン) 谷 達也

「とうとう五人になりましたね」

夫々目的を果たし、予定通り帰国の途についた三月十二日、我々ブラウン班は、ホテルの海浜から遙か西北方、ブラウンの彼方を望みながら、何時行けるかの確証もない儘、残留することになった。部屋に帰つても持参の本も読み尽し気を紛らわす物も無い。フロントの辺りが騒々しくなつたの

で出てみると、帰国組のうち五人が戻つて居る。満席で飛行機に乗れなかつたと言う。彼等は翌日も同じ理由で戻つて来た。何かしら悪い予感に襲われたがこうなつたら腹をくくる外はない。

「会いに行くぞ」位牌に誓つて我が家を出て来た以上、又ブラウン島民も我々の来島を歓迎していると聞いたからには「目的を果たす迄は何日でも頑張るぞ」仕事を待つ三人はともかく、私と秋本さんは心に固くそう決めた。英霊のことを思えば、困苦欠亡酷暑など物の数ではない。

チャーター機がエンジン故障で飛べず、急遽マーシャル大統領や日本外務省を通じて、クエゼリン米軍の救援を求めたが効を奏せず、さればと他社機がチャーター出来た、の朗報も出発当日になつてキャンセル。残るエンジンメーカーであるロールスロイス社の修理技師の来島を待つだけ。恐らく我々の願望が現地の英霊に通じたのであろう、飛行機は十六日飛べるといふ。然し喜ぶのはまだ早い。

出発は予定時刻より一時間遅れ、クエゼリンでの給油や貨物積み込みに予想外の時間を費したが、遂に我々はブラウン島の土を踏むことが出来て漸く一安心。

だだっ広い空港には何の施設も無く数十人の島民が機を取巻くだけ。美しいマジユロとは打つて変り椰子の生育

も悪い殺風景な荒蕪地。「よくもこんな処に八百を超す軍人軍属が……」、暗沮たる気持で祭壇を設け、日本からの品々を供えて涙の中でひたすらに英霊に詫言、そしてその冥福を祈つた。マジユロから同行して下さつた山村様のお蔭で隣のメリレン島にも行くことが出来たのは望外のことであつたが、帰路につく飛行機の都合もあつてブラウン島民と親しく話し合う時間の無かつたことはかえすがえすも残念であり、又島民にも申し訳ないことであつた。

ともあれ、四十一年振り、戦後始めてこの地で慰霊祭が出来たことは、一生忘れ得ぬ感激であつた。かくして二十日、予定より一週間遅れて我々五人と妹尾团长、日本旅行の加藤さん、計七人は無事帰国した。擲筆するに当り、マジユロでの二週間、我々に寄せられた島民の皆様、とり分け日系人協会の方々の御厚情、特に終始御世話をかけた山村様に対し、何と御礼を申し上げてよいものか!! 本場に本場に有難う御座いました。

(横浜市緑区藤が丘2-10-7)

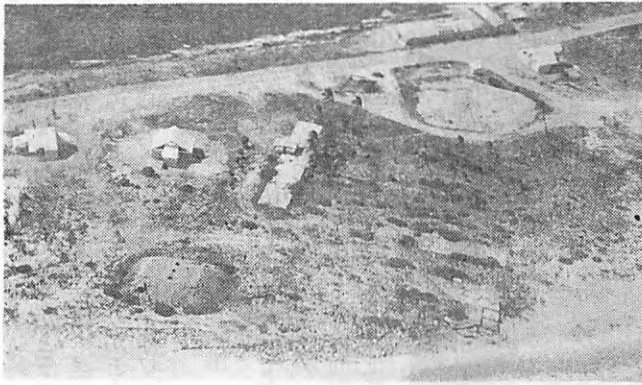
(ブラウン) 塚 田 禎 一

戦後四十年も経つて初めて、永い間の念願であつた父の戦死した地へ会いに行ける事が出来ました。感慨無量です。

「マーシャル群島ブラウン島に於て

戦死』としか知らされなかった敗色濃い当時としては、船もろともその島の近くの海でやられたのやら、或はその地上陸してから戦死したのやら、本当の事は判らないだろうと想像するだけでした。最近になって漁船の人から、ブラウン島は一つの環礁で海拔二、三米位の小さな島だと言う事だけは聞いて居ました。

弟と二人機会があったなら漁船に頼んでも、一度現地へ行きたいと話していた矢先に、今回のマーシャル・ギルバート巡拝の計画を知り、矢も



ブラウン島

植もたまらず申し込みました。

九段会館での結団式の時に頂いた資料に依って初めてマーシャル遺族会の有る事も、又環礁と言う機関誌が発行されている事も知りました。

四十年もの永い間ただあきらめて手をこまぬいて居た事が残念で、又はずかしい気持で一杯でした。

ブラウン環礁のメリレン島かエンチヤビ島のどちらかの島で米軍の艦砲射撃と空爆を受け、最後は敵の上陸に依って全員が玉砕された事を知り、心は早くもその地をこの目で確かめたく又、早く父に会いたい、の気持で一杯でした。

今回の巡拝は、コンチネンタル航空とエヤ・マーシャルの便で行れましたが、共に日本では考えられないようないいかげんさで予定が大幅に狂って迷惑を受け困りましたが、妹尾団長、庭月野さん、加藤さん達はそれ以上に辛かったです。本当に御苦勞様でした。

私達ブラウン班五名だけが一番最後になり、十日間待って漸く三月十六日の朝マジュロ空港を出発、待ちに待ったブラウンへ午後二時半頃到着しました。

数十名の現地の人達が出迎えに来てくれていましたが、時間が無いと言う事で慌てて風の当たらぬ物陰で祭壇を設け参拝。式の中で「君が代」を歌い出すと我々の後に居た現地の人達の中

からも、一緒に歌って下さったのには感激しました。

私達五名の希望で、無理にお願いして隣のメリレン島へもモーターボートで走らせて貰い、短い時間ではありましたが、戦後四十年日本人としては初めてこの地へお参り出来たとの事で本当に有難いと思えました。急いで砂を袋に詰め掃りのボートの中から、やせ地の小さい椰子の木と低い平らなだけの島を眺めて、心の中で「お父さん、さようなら、又機会があったら来ますから待っていて下さい」と叫んでいました。四時頃機内に戻った時には汗びっしょりでした。

本当に慌ただしい参拝ではありましたが、今回の巡拝で忘れてならないのは、山村要さん達日系人の方々の本頭に頭の下がる献身的協力と、各島々参拝毎に徹夜までして立派な花輪を作り持って来て下さり、一緒にお参りして下さった姿です。心からお礼を申し上げます。

最後になりましたが、日本遺族会や関係各位のお骨折りで永年の夢が叶えられ本当に有難うございました。心からお礼申し上げます。まだまだ多くの方々がお参りに行きたいと思っ居られる事と思いますので今後もこのような機会を作って戴きたいと願う次第です。

(福井県坂井郡金津町宮谷39-10)

(タラワ) 祖田 弘光

巡拝の旅を終え、我が家に帰って十日以上もたつ今、なぜか私の心はまだ南の島から帰っていないようです。

45年間この日本に生きて、生かされていた事を改めて知りまた知らされたような気持です。遠い遠い暑い小さな島々、僅かの間にみんな死んでいった場所、熱帯の地を目のあたりにし英霊の命の尊さと有難さを表わしようもなく済まない気持で、昨今の自分の生きざまが恥ずかしく、悔まれます。

自分の生き方はもとより、今の日本人の心の有体、物や金、物質文明にどっぷりとつかり、先祖の苦勞、国の歴史の重みを忘れ、ただ自分を中心に考え生きる生き方、私は思う、あれだけ遠くにまで行き、国を思い、家族を思いそのすべてを散らしていった人々、ありがとうございました。本当にすみません。忘れていました。英霊の皆様や過ぎし昔に、国の為に死に、生きてきた人々の事を。

本当に忘れていたようです。今までの生きてきたベージの中でこれほどの事を自分に聞かせ知らされた事はなかった。

行ってよかった。今の自分の生き方を直ぐ変える事は出来そうもない、少しでも勉強して少しでも心を新たにしたい、また南の島々に、人々に、英霊に自分の生き方をおそわりに行ける日を

楽しみに健康で仕事に頑張ろうと思います。

お世話になった皆さんありがとうございます。お世話になりました。皆さんとまた一緒に逢う日を楽しみにしています。ありがとうございます。 (新宿区横寺町47)

(ウオッセ) 栗原利雄

九段の桜も咲き始める候となつて参りましたが気候不順でございます。

今回マーシャル、ギルバート方面慰霊巡拝に当りましていろいろとお世話



タラワ環礁の南瀛の碑

様になり、且つまたお見送り下され厚く厚く御礼申し上げます。

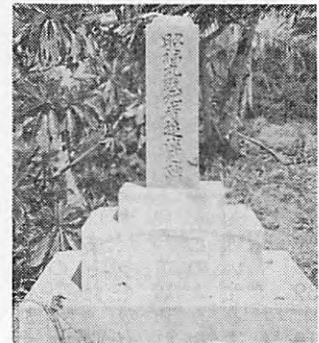
感激の東太平洋戦没者の碑除幕式、慰霊式典と巡拝参加の昨年はまた、公私共に大変御厚情を頂き重ねて御礼申上げる次第でございます。

夕日に映えたウオッセ、水平線の彼方に夕暗に包まれ静かに眠っていた平和な島ウオッセ、もう再び訪れる事は出来ないだろう。胸を刺されるような切ない気持で英霊に、また温かく私達を迎えて下さったウオッセの皆さんに別れて参りました。そうして一年後の同じ三月、続けてウオッセを訪れ慰霊が出来、つくづくと幸福だなあと思つて居ります。兄や戦友達が呼んでくれたのかも知れません。

私がサイパンに転勤で海兵団に仮入団して居りました折、兄の乗る戦艦奥陸が横須賀に入港しましたので面会に行き、語らい励まし合いお互の健闘を祈り別れたのが昭和十五年、それが最後の別れで再び逢う事の無い短い兄弟の運命になろうとは知る由もなく、兄は終戦の年の三月ウオッセに散つてゆきました。

あれから四十年の歳月は流れ父母も今は亡く、土を踏むだけでも良いと折りに触れ思い続けた夢だけが心の望みでありました。その悲願が一度も叶い、兄や二千に及ぶ英霊の慰霊が出来ました事は遺族会の皆様を始め団長様並びに関係の方々の御厚情に依るものと深

ウオッセ島の昭福丸戦死者の碑



く感謝致して居ります。

平和な島ウオッセには今尚、島の方々が集会する建物の広場に据え付けたままの十五匁の水上げ砲、椰子林の中に砲弾に打ち抜かれ大きな穴と無数の銃弾を浴びた二階建のコンクリートの倉庫らしき廃屋、海岸より荷物を送り込む為と思われるアングルの架台、あちこちに赤黒く錆びた発電機と思われる残骸や、姿を留めぬ鉄の塊、上陸に備えての数十米に及ぶコンクリートの塀には四角な銃丸口、その塀に垂れ下った赤く錆びた機銃等、当時を偲ぶには余りにも強烈な感が致しました。艦砲と空爆の下に曝され、更には食糧の欠乏の中に戦い、国家の安泰と肉親の幸福を祈りながらウオッセに散華して行った英霊の皆さん、それが軍人の宿命とは言え私等の胸には熱いものが走りました。

今回団長妹尾様がどうしてもマジュロを離れられない事情に依り、山村様ご夫妻長女の方がご同行下さるとの事

ですので私が団長代理でウオッセに行く事になり、十日早朝遺族七名の計十名は妹尾様、クエゼリン、ブラウンの皆様のお見送りを頂き十二名定員のチャーター機でマジュロを出発、一時間十五分程でウオッセに着き村長さん始め皆様のお出迎えを頂きました。

村長さんに昨年のお礼と今回の訪問の主旨を申し上げ、前日に程近い場所にて七名の遺族で祭壇を飾り、山村さんが態々ご持参下さいました生花の立派な花輪を捧げられ、式次第に依り慰霊式典を無事終了する事が出来ました。是非共墓地の所在を確かめたいと思つておりましたところ山村さんが同行下さるとの由、元気に私等遺族は椰子林の小道を海岸線に沿って探し続け時間には追われながら歩き、漸く発見しましたのが、17年8月7日沈没した昭福丸と、17年2月1日沈没の豊津丸の二基の墓地でした。各々に墓参をすませ直ちに引返しました。

広場に戻りましたところ、沢山のお土産を頂戴致し感激で涙がこぼれ落ちる思いで、ご厚意に対しアチネス村長さんにお礼を申し上げ十一時過ぎウオッセに別れを告げて参りました。

関係役員の皆様を始めマジュロの山村さんご夫妻、ウオッセのアチネス村長さんの、母国では味わえない温かいお心に深く感謝の意を表します。皆様ありがとうございます。

(東京都杉並区松庵2-19-14)

教育荒廃の元凶

篤志会員 木ノ下 甫

先ず図表を見てほしい。これは昭和四十九年から五十八年までの刑法犯少年の数が、警察庁が発表したもの。

四十九年を百として、その増加を表示したものが、五十一年まではほとんど平行だが、五十一年から急上昇している。五十八年には何と二倍半以上、十四歳の少年は、二・六倍に及んでいる。その数も、二万二千余から五万七千余と急上昇している。中学一年生が最高である。一体五十一年に何が起ったのか。これを調査してみても判明したことは、この年に三木内閣の永井文相が榎枝日教組委員長と会談してきめた「ゆとりある教育」が発足し、小学校の学習指導要領が簡単になって、次の重大な三項目の縮小削除が決定したのである。

- 1、わが国の歴史や伝統に対する理解と愛情を深め、正しい国民的自覚をもって国家や社会に尽くそうとする態度を育てる。
- 2、人々の生命財産を守るたいせつな意味をもっている、警察官や消防署の人たちなどの仕事について理解を深め、家庭や社会の安全な生活について考えさせる。
- 3、天皇についての理解と敬愛の念を

深めるようにすることが必要である。

永井文相は四十九年十二月九日、日教組講師団から抜擢されて一躍文相になった異例の人事で、それは三木首相の特命であった。そして当時総評議長として労働組合に君臨していた榎枝委員長と十数回会談して右の合意を見た。つまりこの段階で、文部省の教育方針は完全に日教組路線となり、五十

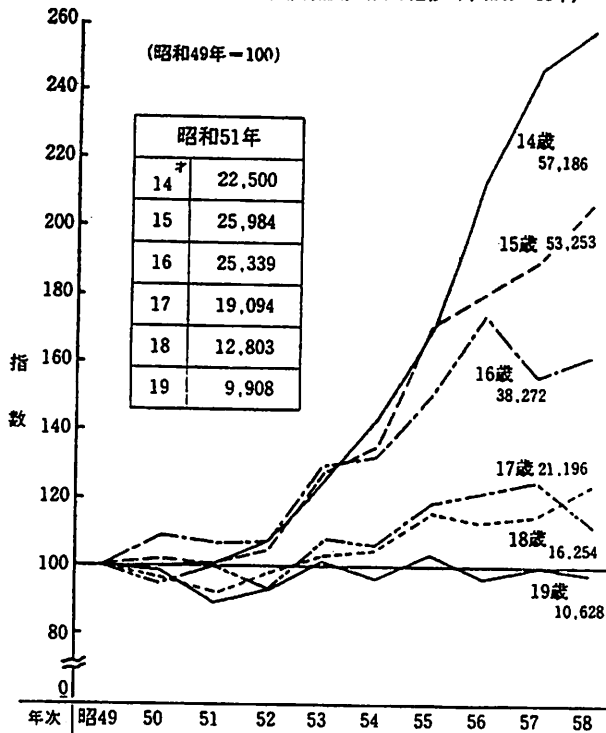
一年末には海部文相となったが、新学習指導要領が法的権威を持つに至ったのである。これで全国六十万の日教組所属の教師達は、労働者として堂々と反日革命教育を展開できることになった。少年非行が急増し出したのは、その年からで、これは大変な重大な事実である。では何故非行少年が急増したのか。

第一の日本の三千年来の歴史伝統を教えなくなった代りに、外来の唯物階級闘争史観の歴史を教え、第二に警察官や消防署の重要性を外して反国家、反権力、個人の恣意を奨励し、第三には天皇など不要と教えたのである。こ

れでは日本人として、自らの国の歴史や伝統を無視し、反って反感を持ち、我儘放題となり、親や教師の正しい教えは、受け入れず、警官を敵視し非行にはしるのは当然である。

更に日教組は全国の生徒に革命教育を普及するには、教科書を独占すれば良いと考えて打ったのが、五十七年六月の教科書騒動である。これほど美事に成功した例はなく、正に完全な謀略の成功であった。六月二十六日の新聞や放送は一齐に今度の教科書検定で、従来「侵略」であったものが「進出」に改められたと報道したが、それは一記者の誤報が原因で、事実は一冊も改められていない。しかも中国はその日のうちにこれを報道したから、手廻しがよすぎる。その時最も熱心にこれを攻撃したのはNHKと朝日で、朝日は翌日中国が報道したことを発表している。しかも榎枝委員長は、その頃、国外にあって国際教育会議に臨んでいたが、いち早くこの報道を各国に発表し、広く各国の反響を呼びかける手際よさで、各国の反応も亦、す早かった。日本のマスコミが騒げばこれに乗って、中国は七月二十六日、韓国は八月三日、外交ルートで日本に書き直しを要求した。これは完全な内政干渉であり、両国間に結ばれた条約の重要な「相互内政不干渉」の明文に違反する不法なものである。しかも文部省当局が、七月二十九日、国会で「改訂し

刑法犯少年の年齢別補導人員の推移 (昭和49~58年)



た教科書は「冊もない」と明言したのに、マスコミはこれを報道せず、NHKのごときは八月二十二日に山室解説委員長が一九七四年の国連決議を引用して、支那事変も大東亜戦争も「侵略」だときめつけた。しかも中国や韓国の抗議が事実無根であって謝罪すべきは先方であるのに、日本の謝罪を要求している。それに乗って八月二十六日、社会党出身の鈴木首相は、宮沢官房長官をして「アジアの近隣諸国との友好親善を進めるうえで、これらの批判に十分耳を傾け、政府の責任において是正する」と中、韓国などに発表公約してしまった。もともと誤報であるのに小川文相の発言を無視された三角事務次官は辞表を叩きつけた。しかし鈴木首相は、フジテレビが「世相を斬る」で八月二十九日「諸君」や「週刊文春」が九月一日、ことの真相を発表し、更に九月七日サンケイ新聞が誤報だったことを大きく発表し、「読者に深くおわびします」とかき、更に「中国抗議の土台ゆらぐ」と報道したのに、NHKはじめマスコミは頗かぶりのままで、九月下旬訪中した鈴木首相は、「一年検定を繰り上げは正する」と確約し、陳謝低頭して帰国し、早速教科書の検定基準に「近隣のアジア諸国との間の近現代の歴史的事象の扱いに、国際理解と国際協調の見地から必要な配慮がなされていること」の一項をつけ加えた。謝罪すべき中・韓国

に対し、遂に「日本は悪かった」と謝罪し、日本は「侵略国だった」と認めただのである。これ以上の国辱外交があるうか。しかし「トロイの木馬」で天下を取った鈴木首相にとっては本音であつた。果して翌五十八年六月改訂の中・高校教科書社会科(歴史)十七冊は全部「侵略」に一定されたのである。

しかしソ連が日ソ中立条約を一方的に破って満州・朝鮮、樺太、千島に侵入し、住民三十余万を虐殺し、北方四島まで侵略したことは、単に進入としボツダム宣言に反して邦人六十余万をシベリアや各地で強制労働を課し、六万余を死亡させたことは、一切記していない。

元来、国連が定めた規定の「侵略」は、英語のアグレッションで、正しくは「挑発をうけない攻撃」のことで、これは侵攻、進攻が適訳であり「領土の占領や財物の掠取」を意味する「侵略」とは全然意味が違うもので国際法上も誤訳である。況んや日本の戦争は領土の奪取を求めたものでなく、逆に植民地の解放をめざすものであつた。又満州事変、支那事変は、双方共宣戦していないのであつて、当時も今日も国際法上事変であつて戦争ではない。しかるにすべての教科書が、日中戦争とかき、家永教科書に至つては十五年戦争などと、勝手にありもしない戦争を創作している。又NHKや朝日が

大々的に宣伝した南京大虐殺のごときは、当時参戦した部隊将兵の証言によつても、外国報道人の報道によつても住民の大虐殺などはなかったにも拘らずすべての教科書が伝聞に過ぎぬ誇大な数字や表現を採つている。

特に日露戦争の記事は数行にすぎず、世界各国の教科書がとり上げている旅順攻略の乃木将軍や、日本海々戦の東郷提督の名前は勿論、大山元帥や明治天皇も出てこないで、個人で英雄視されているのは大逆犯人幸徳秋水、社会主義者堺利彦、クリスチャンの内村鑑三、そして「君死にたまうことなかれ」の与謝野晶子の四名が、反戦の故に必ず出てくるのである。この一事を以てしても、その教科書の意図するものが、反日革命教育であることは明白である。問題はこれらの教育そのものが、決して一・二の教科書会社の方針でなくして、自民党の三木、鈴木両相の下で実施され、日教組の楨枝委員長と密接な合意の上で行われた一大謀略であつたことである。

その証拠は六十年四月から採用の高校社会科歴史を見れば歴然とする。三十冊の全部に、日本は「侵略」とされ「南京大虐殺」があり、ソ連の侵略を書いたものはない。現在の中曽根内閣下においても、文部省は事実上、検定を放棄して相変らず反日自虐の教科書を、年間四百数十億の国民の税金を使って、無償配布し、国民は一切その

内容を知らないのである。肝心の学習指導要領や教科書を完全に日教組に握られたままでは青少年の非行は更に急増し、臨教審の如きは問題にならず枝葉末節の論議に終るのは必然である。中共の文化大革命、カンボジアのポルポト派の大虐殺が少年兵によつて行われた前例が示すように、日教組こそ日狂組に外ならない。

今こそ国民が先ず教科書を見て総反撃に移るべき時である。そしてマッカーサーの占領政策そのものの一掃以外に救国の道はないことを、改めて真剣に悟つて行動に移るべき年である。

靖国神社のみたままつり

恒例の靖国神社のみたままつりが次のとおり行われます。

- 7月13日から7月16日の4日間 開門午前5時 閉門午後10時
- 昇殿参拝希望者は4日間とも午前9時から午後8時まで参集所受付にわれまます。参列希望者は5時40分までに参集所受付に。
- 神賑行事 毎日午前1時から午後8時迄各種の催し物で賑やかです。
- 本会は毎年「みたままつり」に協賛のため大型献灯一個を奉納し御霊をお慰めしております。

恩讐を超えて

篤志会員 村岡達志

オーストラリア東南部のシドニー港の西方、ブルーマウンテンを越えて約二百五十軒行った高原地帯に、カウラという町がある。

その町はずれには、緑におおわれた丘陵が続いているが、ここに第二次大戦のさ中、ふ(俘)虜收容所が設けられ、幾十棟かのバラックがたちならび、各人が別々の棟に收容されていた。

その中の第十二Bキャンプには、日本軍の軍人、軍属約千名が收容されていたが、その大部分は、ニューギニア方面の戦場で悪戦苦闘のすえ部隊が全滅し、重傷を負い生死の間をさまよう中、オーストラリア軍に救われて辛うじて蘇生した者や、南東海面で乗船が撃沈されボートや木片にしがみついた何日間も漂流したあげく、無人島に辿りつき飢餓状態から救出された者たちであった。

收容所を管理するオーストラリア軍の取扱いは決して悪くなく、食料は充分に与えられ、米も魚も日本人のために、特に取り寄せて支給された。外部作業は強制的でなく、出れば報酬が支払われることになっていた。日本人は

暖房用の薪を貯えるために冬の初めしばらくの間は山へ薪の切り出し作業に出かけたことがあったが、それ以上は利敵行為のような気がしておおむね参加を拒絶した。

衣服は、一定期限で交換されるのであるが、期限前でも傷めた物は交換しにくれた。消耗戦術といつて搬入された乾パンをボイラーに投げこんだり、配給品を毀して娯楽用品の材料に転用しても、オーストラリア側は格別問題にしなかった。

ともあれ、表面は平穏無事にみえても、決死の覚悟をもって出陣した若者にとつては、とらわれの身の苦悩や蘇生したことへのうらみなどに責められる悶々の日の明け暮れであった。

昭和十九年八月四日突然オーストラリア軍から、明五日遠隔地へ移動することが令達された。理由はニューギニア方面で日本軍の敗退があいつぎ、ふ虜が日とともに激増し、カウラの收容力がなくなつたためとのことであった。

初めは、平穏にこれに応ずるような空気もあったが、幾度か会議を重ねるうちに夜半に及び、結局次のように決

定した。

「日本軍は、いま非常に苦戦している。われわれとしてこれに協力する方は、ただひとつ全員一丸となつて突撃を敢行し、わが軍の戦意高揚に資し、あわせて敵の心胆を寒からしめ敵の戦意喪失をはかるしかない。不幸失敗してもキャンプの警備兵力を増大することによりその分だけ前線へ敵が送る兵器や兵力の削減に役立つ。一度前線で戦死したわれわれはこれで二度国家に奉公できる」と。

かくて、翌五日午前二時、キャンプに火を放ち、南忠雄一飛曹の進軍ラッパの音とともに徒手空拳にて出撃が敢行されたのである。(元海軍二等兵曹堂市次郎著「カウラ收容所」の一節)

当然のことながら、オーストラリア警備兵による機関銃の十字砲火を浴び二百三十一名の日本人が散華し、百余名の負傷者を出した。幾重にも張られた鉄条網の囲いをのりこえ收容所の外に脱出した者もあったが、オーストラリア軍に損害を与え、混乱をひきおこす以外の目的はなく、一般市民には何ら危害を加えることもなく、かえつて民家で保護され、日ならずして生き残つた者は全員再びキャンプ内に收容された。

この事件で、オーストラリア側では四名の警備兵が死亡し、若干の負傷者を出した。いわゆるカウラ暴動事件がこれである。

年は移つて、昭和三十九年、この收容所あとからほど遠くない丘陵地に、日本政府による海外では初めての日本人戦没者墓地が建設された。

ここには、カウラ事件で死亡した日本人二百三十一名の遺骨を始め、オーストラリア軍事基地爆撃に際し撃墜されて戦死した航空機搭乗員の遺骨三十一柱やカウラ以外のオーストラリア国内に散在した数か所のふ虜收容所、一般在留邦人抑留所などで抑留中死亡した日本人の遺骨を集めて、合計五百五十二柱の遺骨が合葬された。

日本人戦没者墓地に隣接してオーストラリア人の墓地も設けられたが、ここには、カウラ事件で犠牲となつたオーストラリア警備兵の遺体四柱も埋葬されている。

墓地竣工の翌年、昭和四十年六月、日本政府としては、公式に代表遺族の墓参を実現することとなり、たまたま厚生省援護局に勤務中であつた私は、その墓参団の案内役を仰せ付かつた。

現地に着くまで、私たちは、南東方面戦域における日豪両軍の激闘やカウラの暴動事件を想い、現地人の日本人に対する感情は、果してどうであらうかという心配で頭が一杯であつた。しかし、この心配は、全くの杞憂に終つた。

六月六日午後二時からの日本人戦没者墓地での追悼式に当たり、日本側は墓参団の遺族のほかキャンベラとシド

ニーから集った太田大使以下在留邦人約五十人が参列したが、オーストラリア側は、人口僅か六千人のカウラの町の郊外というのに、カウラ市長オリバー氏以下市民約二百人が参列し私どもとともに戦没者の霊に敬虔な祈りを捧げたのであった。

また、追悼式のと墓参団のため、カウラ市長主催による町をあげての盛大で真心のこもった歓迎パーティーが催された。

墓地が日本人の在留するキャンペラヤシドニーから二百料以上離れている関係もあり、その管理はカウラ市に委託されているが、建設以来今日まで遺漏のない丁寧な管理が続けられていることは感謝に堪えないところである。

その後、昭和四十八年には、皇太子殿下ご夫妻がオーストラリアご訪問に際して同墓地に参拝されたが、海上自衛隊遠航部隊のオーストラリア方面巡航に際しても、その都度乗員が同墓地を訪れている。また、カウラのふ虜収容所の帰還者たちの結成するカウラ会代表者による墓参も一再ならず繰り返され、特に事件後四十年目の昨年八月には現地で大規模な墓前祭が行われた。そして、いつもながら墓参の日本人に対する現地市民の好意に満ちた歓迎が続いているのはありがたいことである。

昭和四十年墓参団訪問当時の市長オリバー氏やその後の女性市長ベネット

さんも数回来日して日本との親交を一層深められているが、殊にオリバー氏の幹旋で成蹊学園、奈良・一条両高校と現地との留学生交換が実現され、また、ベネットさん（長女を日本留学に出した）の推進で、昭和五十四年にはカウラに日本庭園と日本文化センターが建設された。

一方、その後カウラ方面の干ばつ被害が伝えられるや、カウラ会からは迅速く救援のための寄付が寄せられた。

なお、昨年来進められていたオーストラリアの映画社によるカウラ事件の映画化がこの程完成し、本年四月以降二時間ドラマとして現地のテレビで放映されるとのニュースが伝えられている。

日豪双方に大きな犠牲をもたらしたあの不幸なカウラ事件が、どうしてその後このような両国民の親善友好のかけ橋となり得たのであろうか。

それは、決起した人たちの行動が、処遇に対する不満とか、拘束から逃れたいというような個人の損得からでなく、自己を犠牲とすることにより少しでも祖国のために役立ちたいという純真な気持ちから発したものであることが、かつては敵国の間柄であった人々の心にも深く訴えるものがあるからに相違ないと思われるのである。

(60・2・27)

(元厚生省援護局業務第二課長)

ルオット島の想い出

東京 黒川 誠

昭和56年8月マリーシャル方面遺族会より派遣される墓参団に参加することになりました。本心に嬉しく思いましたが、永い間の念願でありましただけに、その感激は終生忘れられない想い出として今尚心に残っております。

私の兄弟は私が頭で、三男四女七名の兄妹でありましたが、唯一人欠けたのが次男（三男）で、それが南方の島ルオットで玉碎と云う無残な最後でありました。

それだけに本心に可憐な想い出です。今でも胸が痛みます。当時の日本軍のことですから水も食糧も不足で苦しい生活の末に玉碎、と考えるだけでも涙が出るくらいです。

第三男の戦死の公報が入ったときはたまたま私の応召の通知があった日でもありました。両親のダブルパンチを受けた様に落胆した顔を見て居たままれない想いでした。

私は弟が戦死した場所がどの様なところか、どんな最後を遂げたものか自分の眼で、たしかめて見たいと思っておりましたが、クエゼリン、ルオットの両島が米軍基地化しているため個人の立入りはおろか、立寄りも不可と知らされているので行かれる機会を千秋

の想いで待つておりました。

今回の墓参団に参加された人達もいろいろの思いを胸に秘め、心にえがいて一路マリーシャル群島を目指して飛び立って行ったと思えます。

赤道に近い、クエゼリン、ルオットは真夏の太陽がキラキラ輝く常夏の島でした。マジユロからクエゼリン島へ着き軍事基地化している同島は、今から35年前に島が変形する様な激戦があったとは信じられないくらいに整備されて、基地でなければ別荘地の様な平和なムード一杯でした。

私の念願でありましたルオット行きはスケジュール外のため、その実現にはかなりの不安がありました。中田さん（二世の方）のご厚意で行くことが出来る旨知らされて、四人乗りの小型機でルオットへ向いました。

無事ルオットへ着きますとアレックスン他が出迎えて下さいます。すぐ車で墓地へ案内してくれました。墓地はまわりをヤシの木やその他の植木でかまされて緑の芝生の上に静かなたたずまいの中整然と出来ており、墓碑銘には「ルオット島防備のため自らの生命を捧げた日本の勇士ここに眠る」と記されてあります。

夢にまで見た悲願とも言えるルオット行がここに達成された喜びは、大きな感動となつて、あれから四年も経った今日でもあの感激は忘れることが出来ません。

環礁が隆起して出来たこの島々は本当に奇麗なところだ。空も海もぬける様に青く道路以外は緑の芝生が植えられ、絨毯を敷いた様です。爽り豊かな椰子の木の間に白亜のスマートな建物が建ち並んでいて、ルオットはクエゼリン以上に美しい風景が強く印象に残りました。

本会の会員名簿を見ますとルオット島で戦死された遺族の方が少なくありません。同島は現在どの様な規制下にあるかよく判りませんが、次回に同方面の墓参団を派遣する計画がありましたならば、クエゼリンに続いてルオットの墓参も是非計画の中に加へられて、同島の御遺族の方が一人でも多く墓参の出来る様、会長さんをはじめ幹事のみなさんで積極的な御尽力を賜りたく思います。これは会存続の一助にもなるものと思ってお願ひ申し上げます。(東京都品川区平塚3-4-17)

お便りの中から

(マロエラップ) 橘 ハルキ

今年も雪も少なく暖かな冬だと思えますが其の後如何お過ごしでしょうか。

先般、マーンシャル方面戦死者慰霊祭に参加致しまして色々お世話様になりました。昭和三十八年、遺族が団体で靖国神社参拝が行なわれる様になってから、二度程参加致しましたが拜殿で

の参拝で今回の様な昇殿参拝は初めてでした。マーンシャル諸島巡拝に参りましても靖国神社に参拝致しまして何時も亡き主人に目の辺り達って居る様な気持ちになって「子供達それぞれ立派に成長し、成功もし良い家庭を築き、子宝に恵まれ孫達も有名大学に進み長男の子供は中二で柔道初段を取得し愛媛県では第一位に成れる様励んでおります。」など幸せな現在の様子を語りかけるようにしてお参り致しております。

戦後四十年を経過致しました今日、あの悲惨な境遇は忘れ去られようとしております。その現状の中、私達はこの遺族会の昇殿参拝に依り当時の様相を思い起し、胸に深く刻み直し現在の平和は英霊のお蔭と感激で一杯に成りました。これも遺族会のお世話役の方々の御尽力の賜と感謝せざるを得ません。重ねて厚くお礼申し上げます。

私はマーンシャル方面遺族会のある事は長らく存じませんで、やっと一昨年松山の久保田様(亡夫の上司)の奥様からお聞きして、浮田会長様に御紹介頂き早速昨年東太平洋方面慰霊巡拝に参加する事が出来ました。二月十日の慰霊祭にも初めて参加させて頂いた訳でございますが、浮田会長様二十二年もの長い間結成当時から随分御苦勞の多い中を奉仕の精神でお尽し下さり大変お世話様になりました。尚退任後も引き続き名譽会長

として御支援下さる御様子、有難く頭の下る思いで一杯で御座居ます。お齡を召されお体にも御無理と拝察致しておりますが、立派に責務を全うされたその蔭には言い知れぬ奥様の多大な内助の功の伺える事を感じまして御夫妻共々へ厚く厚くお礼申し上げます。今後共健康にご留意なされ何時までもお達者で遺族の為御力添え下さる事をお願ひ申し上げます。

続きまして、副会長であられた佐藤様が会長に御就任頂きまして満場一致遺族の一人一人、不足の無い満ち足りたお人柄に一同満足で喜びに溢れて居ります。御年齢からお見受けしてもの信じられない程お若くて、健康そのもの活気に満ち満ちた青年の様なお方又誠心誠意尽して下さりそんな御人物、マーンシャル諸島巡拝の際等お疲れの御様子も見せずお元気で御活躍御指導下さった事が強く印象に残って居ります。本当に良き後継者を得る事が出来まして我々遺族は申し分の無い心境で一杯で御座居ます。どうぞ今後共お体に自信を持たれ末永くお世話頂ける事をよろしくお願ひ申し上げます。

今回上京の数あるみやげ話の中、一際目立つのが箱根への旅、同じ境遇の者同志の寄合いで同じ想いを勞り乍ら一泊二日の旅、特に大涌谷より展望の富士山の眺め、幾度見ても飽き足りぬ裾野迄の全景をはっきりと惜み無く展開し目を楽しませて呉れました。あ

んなにも美しく優しい富士は初めてでした。純白の雪の衣を身に纏いオリブ色の裾模様、雄大にして何となく女らしさのある山、「賛嘆留まることを知らず」でした。生涯を通じ心に刻み印象に残る事と存じます。又温泉の黒卵(長寿卵)を二個も頂きお腹一杯になって長生きを祈った事、鈴広かまぼこ工場にての昼食も暖かい鍋物で美味でしたが、黒卵の二個が効いてか食べられなくて残念でした。

此の度の旅行に際し遺族会のお世話下さって居られる方々に手厚いお気配りを頂き深く感謝致して居ります。

聞くところに依りますと会の財政の都合で事務員さんにやめて頂いたとか、役員の方々は奉仕の形で御協力下さっているのと知り一層の敬意を表さずには居られません。

前後致しましたが、スケジュールの都合でマーンシャル諸島慰霊巡拝のビデオ放映が出来るかどうか不安でしたが前以って会長様にお電話致しておきましたら早速参集所にて放映、強羅ホテルでは到着するや入浴直後放映、と御手配して下さり皆様に喜んで頂け、息子がダビングして呉れ持参出来た事で幸を感じました。

どうぞ今後共大変でござ居ましようがよろしくお願ひ申し上げます。

ありがとうございます。

(愛媛県松山市井門町五一九)

食事と健康……これでバッチリ

——簡単です 四群点数法——

栄養は運動、休養とともに健康人になるための三要素のひとつですが、ひとくちに栄養といっても、台所を預る主婦にとって頭の痛いところ。一日に必要な栄養をバランス良くとるにはどうしたら良いか。食事と健康について女子栄養大学の香川綾子先生にお聞きしました。

食事では、まず第一に摂取熱量の問題があります。成人男子に必要な熱量は二〇〇〇〜二五〇〇キロカロリーですが、都民の一日平均摂取熱量は二一七六キロカロリー（昭和54年）。まずまずの数字ですが、これはあくまで平均。

四群点数法とは

栄養のバランスとか食事の見直しといっても、具体的にどうしたらよいかわからない、あるいは忙しい毎日、あれこれ考えておれないという人も多いでしょう。香川先生が考案した四群点数法は、そんな人にはうってつけです。

「年齢、運動量によって必要な熱量は違います。自分に必要な熱量を知ることが大事です」と香川先生はいつています。

四群点数法は栄養成分の似た食品を四つに分類したもので、各食品とも八〇キロカロリーに相当する量を一点として計算しています。第一群から第四群までの分類と特徴を説明すると、

▽第一群 牛乳、乳製品、卵、タンパク質、脂肪、ビタミン、ミネラルなどを含む総合栄養食品

▽第二群 魚介類、肉類、上記の加工品、豆製品、蛋白質、脂肪が中心

▽第三群 野菜類、果実、ビタミン、ミネラルが中心

▽第四群 穀物、菓子類、アルコール、砂糖、油脂、その他糖質（炭水化物）が中心

四群点数法の基本は、どんな人でも第一〜三群で一日必ず三点ずつ計九点

（七二〇キロカロリー）取ること。第一群から牛乳・乳製品で二点、卵で一点、第二群からは魚介・肉類で二点、豆・豆製品で一点、第三群からは淡色・緑黄色野菜、芋、果実をそれぞれ一点ずつ、という具合です。第一群を卵だけで三点取ったり、第三群を果実だけで三点取る、などというのは栄養のバランスが壊れてしまいます。

第四群については年齢、運動量に応じて個々に調節します。熱量の過不足をここでチェックするわけです。ただし減量のために急激に点数を落とすと危険です。

第四群の調節については香川先生は、「全点数の五〇%前後を摂取の目安にする」とよいでしょう」とポイントを指摘しています。

図の合計二〇点（一六〇〇キロカロリー）は家事をする成人女性の基準量ですが、第一〜三群で九点、第四群で総点数の五五%、一点を取るわけです。

運動量が少なく減量が必要で、総点数一五点（一二〇〇キロカロリー）におさえる場合でも、第一〜三群の基本九点は減らさず、第四群を総点数の四〇%・六点にするというようにします。

また肉体的労働のような激しい運動をする人は、第四群ばかり増やさず、第一〜三群も比例して増やすようにすると良いでしょう。

なお第四群は、穀類と油脂を中心と

し、アルコールや菓子類だけで補うことは絶対に避けましょう。歯ごたえがあるから良くかんで食べるので、パンや麺類よりゆっくりと吸収されてゆきます」と香川先生はいつています。

米のなかでも香川先生の推奨品は胚芽精米。もみを取り除いただけの玄米は胚乳、胚芽と、それらを取りまくヌカ層で構成されています。私たちが普段食べている精白米はヌカ層と一緒に胚芽も取り除いたものですが、胚芽にはビタミンやミネラルが集中しています。

精白米と胚芽精米の一点（八〇キロカロリー）当りの栄養比較をしますと、タンパク質は同じですが、ビタミンB₁ 精白米〇・〇三ミリグラム、胚芽精米〇・〇五ミリグラム、カルシウム 精白米一ミリグラム、胚芽精米二ミリグラム、リン 精白米三二ミリグラム、胚芽精米六七ミリグラムと、約二倍の栄養が胚芽精米には含まれています。その他、芽胚精米には過酸化脂質を防ぐといわれるビタミンEも含まれています。

（医療健康紙サンヘルズより転載）

おわび 編集委員

今回は何時になく沢山の原稿を頂き、嬉しい悲鳴をあげました。異例の20頁にしましたが、尚数人の分が次号送りの已むなきに至りました。



該当の皆様にご挨拶致します。

四群点数法の一例

(女子栄養大学出版部の「健康さわやかカード」から)

1点は80kcal。総点数は20点で1,600kcal。これは家事をする女性の基準量です。

サークル	230	0
アイ	210	0.8
イ	110	0.2
イ	70	0.3
サ	32	0
ピ	15	3.6
バ	12	0
マ	9	0
本	35	0.3
薄	170	0.1
ウ	70	9.5
ツ	70	0.7
カ	17	1.0
レ		
ル		

<p>第一群 3点</p> <p>乳・乳製品 2点 卵 ----- 1点</p> 	<p>第三群 3点</p> <p>淡色・緑黄色野菜 1点 芋類 ----- 1点 くだもの ----- 1点</p> 

第三群

ラン	400	7.6
パン	400	3.4
ス	350	10.5
ー	250	3.0
レ	750	7.2
ト	700	7.3
ス	650	6.1
ト	500	3.2
ス	450	3.5
ス	450	4.8
ス	350	4.6
ス	230	2.2
ス	160	8.4
ス	60	4.8
ス	220	1.7
ス	210	1.4
ス	160	0.3
ス	95	1.0
ス	100	2.0
ス	65	0.7

第四群

ハ	55	1.5
チ	35	1.4
ン	30	2.5
ン	30	1.9
ン	29	2.8
ン	29	2.4
ン	17	1.7
ン	30	1.8
ン	26	1.7
ン	15	0.6
ン	32	2.5
ン	24	1.6
ン	16	1.2
ン	200	1.0

食品1点 (80%カロリー) あたりの塩量とタンパク質含有量 (単位はg)

第一群

食品名	塩量	タンパク質
乳類	140	4.0
牛乳	110	3.6
バター	23	4.9
生乳	40	0.9
卵	50	6.2

第二群

シ	55	10.4
ギ	30	4.9
オ	65	15.8
イ	80	14.9
ケ	50	10.0
バ	35	6.7
カ	60	16.9
コ	105	16.4
ロ	105	17.0
口	95	14.6
口	30	6.8
口	65	7.8
口	70	8.7
口	90	14.8
口	70	13.7
口	75	17.8
口	40	6.5
口	21	7.1
口	120	7.8
口	23	4.2
口	60	4.7
口	45	6.9
口	40	3.6
口	45	5.9

英霊にお応え

するために

会長 佐藤宗丕

世界のどの国でも、国家、民族の為に犠牲になった者に対しては、その国が最大の名誉と尊崇の誠をつくし、最高の饗礼を以て報いております。

我が国でも殉国の英霊二五〇万柱が国によって靖国神社に丁重に祀られておりましたが、昭和二十年十二月、日本弱体化を狙った占領軍命令により、政府と神社の関係は一切絶たれ、戦後四十年未だにそのままになっておりますのは国家道義の放棄であり、英霊に申訳もない次第であります。

今、我が国は経済的には世界の優等生として羨まられる程になりましたが、道義の面では右の一事を以て劣等生と評されても致し方のない状態であります。

靖国の英霊は国自らがお祀りして頂きたいという要望が英霊にこたえる会に結集して全国的に活発な活動を続けております。本会会員の大勢が地域の支部で活躍しておられるのは御同慶の至りです。遅れ馳せ乍ら会の本部も団体加入の手續きをとりました。

会員皆様のうち趣旨に御賛同の方は同会に入会されて、英霊が公(おおよけ)に祀られるよう御尽力下さい。

英霊にこたえる会の主旨、組織と運動、入会の手続等は同封のチラシの通りであります。

入会申込先は、同会の市町村支部ですが、わからない方は、本号同封の会員名簿用はがきの通信欄にその旨お書き下さい。本部からお知らせします。

本会は先に、靖国神社維持に協力するため靖国神社奉賛会に団体として加入し、微力ながら些かの貢献をしており会員皆様にも御入会をお勧めしております。(57年7月・環礁37号参照)

靖国神社にお詣りして「御覧下さい。お蔭様で家族はこんなに幸せです。日本はこんなに立派に立直りました」と御報告できたとき、初めて英霊にお応えしたことになります。その第一歩は靖国神社公式参拝の早期実現であります。

「ヤルート戦記」

—その苦闘と鎮魂の書—

マーシャル諸島のヤルート島で、玉砕には至らなかつたが米軍の砲撃に生き残った人々が、亡き戦友への鎮魂と、戦争体験のない世代への遺言として綴った証言集

出版社 名古屋中央区三の丸三一四
— 〇〇 大津橋ビル

黎明書房

予約問い合わせ先

☎四四一〇二 愛知県宝飯郡音羽町大字萩字小貝津七 上林房次
電話〇五三三八一四〇七七

寄附者芳名

(敬称略)
(三九七名)

本欄の掲載の会員各位は、年度会費御完納の上の御寄附であり
本会運営に寄与するところ多く役員一同いつも感謝申し上げます
ります。一層節約を旨とし本務遂行に事欠かぬよう留意致します
ので今後共御協力頂きたく御礼と共に御願い申し上げます。
(昭和59年11月1日から昭和60年5月31日までに入金の分)

篤志会員その他

中島新之丞殿
上林 房次殿
既 名
嘉村 栄殿
ハワイ大学教授
ペリンジャー氏夫人殿
星川 武殿
鈴木 寅雄殿

岩手県

菅原 キイ
刈屋みさを

宮城県

桜井きみの
新田富美子
平形いせこ
松本 孝子
卯花要一郎

秋田県

熊谷サタヨ
奥山 きの
小室舜司郎
佐藤 敏子
小前 ミヤ
関山富一郎

山形県

丹野 アサ
渡辺 ミノ

福島県

石橋 節子
富田 ミツ
馬上一 嶺雄
吉津みどり

茨城県

日出山 光
矢吹 はま

北海道

堀口 三男
沼山長一郎
黒沢 克己
伊藤 フジ
長男 大野 優
長女 伊藤 優

青森県

小笠原岩勝
工藤 ハナ
田中 ロク
妻 本堂 テフ

栃木県

塚原 ハナ
伝福 ちゑ
下川興三郎

群馬県

森 ゆき江
珍田 光子

埼玉県

小谷中せい
土屋トミエ
吉田 よね
小野 リエ
藤田きよせ
近藤マスエ
浅野 チカ
菅井せい子
宇田川ひさ
小田原利子
福島 レイ
北原ひで子
栗原 タネ
鯨井 久八
橋本 敬一
幸島 強

千葉県

津久井 鏡子
高井 一正
高山 貞男
川名 博夫
高安 コト
川間 つね

東京都

芳賀タツエ
広原 チヨ
石川 きみ
谷沢 孝夫
相川 理吾
柴崎 茂弘
倉田 茂弘
田中ゆきゑ
五十嵐孝三
菅谷喜代子

神奈川県

助川与富子
柴田 貞子
落合 てふ
大槻惣一郎
今村 シマ
中村 サダ
佐藤鉄太郎
沖立 キヨ
岩田とし子
西森サツキ

東京都

関松ふみ江
小泉 文江
岩浪きよ子
土岐 達雄
佐竹 エス
黒川 誠
佐藤 宗丞
中村喜久代
山森 久江
六軒つる子
佃 喜美
井上 賀雄
木村 久子
高橋 鎮夫
橋口 昭利
梶間 楽平
間々田やす
浮田 はな
水野 信家
吉田 いそ
吉田 雄吉
田中 雄吉
番勘 信子
三ツ木正次
河野 勇一
矢崎 寧之
荒木 常子
小林 ミツ
吉田 やし
菅沼 清
大島 か乃
小島 章
齊藤 幸江

東京都

菅沼 昇
千野 ます
飯島浩一老
山口 裕子
栗原 利雄
齊藤耕太郎
石谷 トシ
田中ゆきゑ
五十嵐孝三
菅谷喜代子

東京都

菅沼 昇
千野 ます
飯島浩一老
山口 裕子
栗原 利雄
齊藤耕太郎
石谷 トシ
田中ゆきゑ
五十嵐孝三
菅谷喜代子

東京都

菅沼 昇
千野 ます
飯島浩一老
山口 裕子
栗原 利雄
齊藤耕太郎
石谷 トシ
田中ゆきゑ
五十嵐孝三
菅谷喜代子

東京都

菅沼 昇
千野 ます
飯島浩一老
山口 裕子
栗原 利雄
齊藤耕太郎
石谷 トシ
田中ゆきゑ
五十嵐孝三
菅谷喜代子

東京都

菅沼 昇
千野 ます
飯島浩一老
山口 裕子
栗原 利雄
齊藤耕太郎
石谷 トシ
田中ゆきゑ
五十嵐孝三
菅谷喜代子

東京都

菅沼 昇
千野 ます
飯島浩一老
山口 裕子
栗原 利雄
齊藤耕太郎
石谷 トシ
田中ゆきゑ
五十嵐孝三
菅谷喜代子

◇富山県			◇新潟県			◇石川県		
妻	妹	妻	兄	弟	妻	姉	妻	妻
廣島	金山	村松	河崎	小林	新保	平松	榎本	菊枝
宮子	深雪	昭二	通宜	正道	たか	菊枝	益明	シズ
◇静岡県			◇岐阜県			◇長野県		
兄	妻	妻	妻	妻	妻	母	妻	妻
野崎	市川	松下	宮下	勝野	伊藤	中山	三井	望月
豊秋	市郎	竜二	礼子	仁一郎	まさの	いよ	精義	とよ子
◇和歌山県			◇大阪府			◇三重県		
妻	兄	姉	妹	妻	妻	妻	妻	妻
福井	伊藤	馬場	山中	安井	塚家	近沢	伊藤	正野
柴子	登	富美子	美子	文子	かつ江	あき	みね	きぬ
◇山口県			◇奈良県			◇京都府		
妻	妻	妻	妻	妻	妻	妻	妻	妻
道源	山田	嶋田	小林	松本	溝口	中島	浜田	金子
ヒサ	チヨ	チヨ	アヤ子	タカミ	ハナコ	清子	敏江	アサ
◇福岡県			◇高知県			◇愛媛県		
妻	妻	妻	妻	妻	妻	妻	妻	妻
森	橋本	樗木	田中	入福	河野	井原	山本	久保
キヨ子	マサエ	孝二	百合	菊恵	里美	トノヨ	峰子	泰子
◇徳島県			◇香川県			◇徳島県		
妻	妻	妻	妻	妻	妻	妻	妻	妻
栗本	坂本	正清	栗本	孝一	正清	栗本	孝一	正清
孝一	孝一	正清	孝一	正清	正清	孝一	正清	正清

◇大分県	一〇〇〇〇〇〇	三〇〇〇〇〇	母兄母	宮城ミツギ 衛藤金喜 石塚文子
◇熊本県	一〇〇〇〇〇〇	八〇〇〇〇〇	長女	山村安行
〃	〃	五〇〇〇〇〇	母	片山玲子
〃	〃	三〇〇〇〇〇	妻	山部シゲモ
〃	〃	三〇〇〇〇〇	妻	佐野朝子
〃	〃	三〇〇〇〇〇	妻	塚野ヨシ子
〃	〃	三〇〇〇〇〇	妻	江口フジエ
〃	〃	二〇〇〇〇〇	妻	篠原弘子
〃	〃	二〇〇〇〇〇	妹	村上佳寿子
〃	〃	二〇〇〇〇〇	母	勝木ユリエ
〃	〃	一〇〇〇〇〇〇	兄	鹿島サク
〃	〃	一〇〇〇〇〇〇	兄	北村権蔵
◇長崎県	一〇〇〇〇〇〇	一〇〇〇〇〇〇	妻	前田フサ
〃	〃	一〇〇〇〇〇〇	妻	山下タエ
〃	〃	一〇〇〇〇〇〇	妻	松尾フサ
〃	〃	一〇〇〇〇〇〇	妻	田村サヨ子
〃	〃	一〇〇〇〇〇〇	妻	林文枝
〃	〃	一〇〇〇〇〇〇	妻	福田音和
〃	〃	一〇〇〇〇〇〇	妻	平田利子
〃	〃	一〇〇〇〇〇〇	妻	井上義夫
〃	〃	一〇〇〇〇〇〇	母	山口トモ
〃	〃	一〇〇〇〇〇〇	姉	大石春見
〃	〃	一〇〇〇〇〇〇	父	板浦重雄
〃	〃	一〇〇〇〇〇〇	妻	横山アヤ子
◇佐賀県	二〇〇〇〇〇〇	二〇〇〇〇〇〇	妻	犬山タツノ
〃	〃	二〇〇〇〇〇〇	母	坂本トセ
〃	〃	二〇〇〇〇〇〇	母	田中ノエ
〃	〃	二〇〇〇〇〇〇	妻	岩崎繁幹
〃	〃	二〇〇〇〇〇〇	父	小野繁林
〃	〃	二〇〇〇〇〇〇	兄	一木貞利
〃	〃	二〇〇〇〇〇〇	兄	岩橋シマエ
〃	〃	二〇〇〇〇〇〇	妻	近藤シヅエ
◇宮崎県	三〇〇〇〇〇〇	三〇〇〇〇〇〇	妻	鳥山栄二
〃	〃	三〇〇〇〇〇〇	妻	山口マサ子
〃	〃	三〇〇〇〇〇〇	妻	稲留タメ
〃	〃	三〇〇〇〇〇〇	妻	池田トミ
〃	〃	三〇〇〇〇〇〇	妻	高橋重美
〃	〃	三〇〇〇〇〇〇	妻	森フサエ
〃	〃	三〇〇〇〇〇〇	妻	山口ミワ
〃	〃	三〇〇〇〇〇〇	妻	塩月チサ
〃	〃	三〇〇〇〇〇〇	妻	井上ユカ
◇鹿児島県	一〇〇〇〇〇〇〇	一〇〇〇〇〇〇〇	長男	和田芳久
〃	〃	一〇〇〇〇〇〇〇	兄	米沢正夫
〃	〃	一〇〇〇〇〇〇〇	妻	村上ノキ
〃	〃	一〇〇〇〇〇〇〇	妻	神川カツ
〃	〃	一〇〇〇〇〇〇〇	妻	川畑ツルエ
〃	〃	一〇〇〇〇〇〇〇	妻	染川トメヨ
〃	〃	一〇〇〇〇〇〇〇	妻	森テル子
〃	〃	一〇〇〇〇〇〇〇	妻	徳重ミツ子
〃	〃	一〇〇〇〇〇〇〇	妻	村上ノキ
〃	〃	一〇〇〇〇〇〇〇	妻	里岩キミエ
〃	〃	一〇〇〇〇〇〇〇	兄	原田惟行
〃	〃	一〇〇〇〇〇〇〇	妻	中堂園シヅ
〃	〃	一〇〇〇〇〇〇〇	妻	浜崎武一
〃	〃	一〇〇〇〇〇〇〇	父	富山純孝
〃	〃	一〇〇〇〇〇〇〇	妻	石原キク
〃	〃	一〇〇〇〇〇〇〇	妻	小浜春恵
〃	〃	一〇〇〇〇〇〇〇	妻	宮城幸子

今年こそ

靖国神社

公式参拝を!

南瀬マリア観音建立資金寄附者
 三〇〇〇〇 (福岡) 荻野千代子
 一〇〇〇〇〇 (東京) 六軒つる子
 (二名)

現地慰霊を

希望する方々へ

去る二月十日の総会での約束により、明
 六一年度の現地慰霊の計画大綱を発表いたし
 ます。参加を希望される方は同封の「会員名
 簿資料はがき」の「通信欄」に、参加希望者
 の氏名、性別、年齢、島名を御記入の上、本
 年七月末日までに御投函下さい。
 六十一年度現地慰霊案
 時期 61年8月下旬 約10日間
 行先 マーシャル諸島のマジロ島を基地と
 して、マロエラップ島、ウオッセ島、
 クエゼリン島、ブラウン島(エニウエ
 タク島)
 (ルオット島は今後交渉します)
 費用 概算五三万円
 今回はマーシャル諸島のみとし、ギルバー
 ト諸島については別途企画します。
 希望者が少い時は本計画はとりやめます。

本部だより

○会員名簿の整備に御協力を……
 事務処理の効率化のため、会員名簿を整備
 することとしました。

同封のはがきの全欄に楷書で記入の上40円
 切手を貼って七月末日までに御投函下さい。
 その後変更のときはお知らせ下さい。原本
 を訂正しておきます。

○本部事務所が移転しました……
 本会の本部事務所は昭和43年から17年間、

浮田前会長の邸内に置かせて頂き、筆舌に尽
 せないお世話になりましたが、本年二月会長
 交替に伴い、本部を次の所に移転いたしまし
 ました。
 東京都中央区日本橋人形町一八―二
 泉商事株式会社内
 電話 〇三―六六一―八七六〇

(泉商事は佐藤会長の経営です)
 夜間の電話は次にお願致します。
 佐藤会長 03―七二〇―一二四八
 田中常任幹事 03―七二九―二九六五

○霊砂御入用の方はどうぞ……
 本年三月、日本遺族会の巡拝団が、ブラウ
 ン島(エニウエタク島)と、メリレン島に行
 きましたが、妹尾団長はその時採集した両島
 の霊砂を本会に寄贈下さいました。
 本部には、マーシャル、ギルバート両諸島
 中の日本人の戦死した殆どすべての島の霊砂
 を保管しておりますので、御入用の方はお申
 込み下さい。
 代金、送料など一切いりません。

○環礁に原稿を……
 随想、和歌、俳句、戦地からの便り、談話
 室等々何なりとお送り下さい。
 本号の「慰霊の本義」に対する反論、異論
 も歓迎いたします。

本 部
 郵便番号 一〇三
 東京都中央区日本橋人形町一八―二
 マーシャル方面遺族会
 電話 〇三―六六一―八七六〇番